

社会福祉
社会保障

は、いま

16

市民は観客から
プレイヤーへ

本紙4ページにあるように福祉のまちづくりフォーラムを白川町社会福祉協議会と共催で、8月27日、白川町福祉センターにおいて開催しました。ここでは、フォーラムの中から、大阪府阪南市長・水野謙二さんの報告を中心に感想を述べてみたいと思います。

阪南市が福祉のまちづくりに取り組むことになった理由は何か。それは、市役所が2年前(2016年10月)、市内の幼稚園・保育園7施設を1か所に統合する子ども館構想をうちだし、それに反対する親たちが、住民自治を政策の柱にする水野市政を誕生させた。水野市長はトップダウンからボトムアップをめざし、「自分たちのまちは自分たちで守る・創る」という住民主導による公民協働のまちづくりを政策の中心に置いています。その取

組みは縦割りから横のネットワークづくりへの転換でした。小学校区を基盤に「まちなかカフェ・サロン」、「子育てサロン」、「認知症カフェ」等を次々と作っていくやり方です。活動の主体は全世代です。「子ども福祉委員活動」は、その担い手が中学生であり、引きこもり・障害のある人など、誰もが交流できる多世代共生型のサロンの一つを担っています。この共生型の地域づくりを「阪南ほっこりプロジェクト」といっており、住民と専門職による「見守りネットワーク」、子ども居場所(学習支援や子ども食堂)づくり、等多様です。サロンやカフェには、保健・福祉の専門職が出張相談という形で、困りごとに寄り添い、支えあう活動を進めており、公民協働になっていきます。

このような阪南スタイル

はどのように創り出されたのか。前市長時代に財政調整基金のかんりの額が取り崩されてきており、財政再建の行財政改革が待ったなしになっていました。そこで考えたのが「水野メソッド」です。水野メソッドとは、市民が市役所に「やってみよう」という待ちのスタイルから、ともにつくる共創へ。縦割りから横の連携へ。市民は観客からプレイヤーへ。といった形で市民の活力の創造を進めています。背伸びをせず、「丁度良い田舎」をめざし、阪南市の豊かな海、山、産業と、文化を守る取り組みへと、まちづくりの転換を図っています。

人材づくりをどう進めるか。小学生が「海を守り隊活動」に入り、次の時代を背負い始めています。地元の人材を創り、つないでいく取り組みも面白いと思います。水野市長の報告から学ぶものが多かったフォーラムでした。

(社会福祉法人
サンシャイン福祉振興会理事長・
聖隷クリストファー大学

大友信勝
大学院教授)

新人職員紹介



齋藤 千昭

サンシャイン美濃白川
サブワーカー

介護施設での仕事は初めてです。
先輩方に指導していただき、一日も早く役に立てよう頑張ります。

文芸コーナー

雨やんでホームの食卓に

薄日差し込む秋日和

利津子

意地張らず心豊に老いゆけば

何か良い事有ると思おゆ

秀子

フラココやニュートン偲び下を見る

千枝

秋桜活けて寿司屋の縄のれん

やす子

長月や肌にしむお年頃

いね

長月の夜も十五夜よいとこさ

澄雄

